

会 議 録

会 議 の 名 称	令和２年度第２回弘前市文化芸術推進審議会
開 催 年 月 日	令和３年３月２４日（水）
開始・終了時刻	１０時００分から１２時００分まで
開 催 場 所	弘前市役所 市民防災館３階 防災会議室
議長等の氏名	小川 幸裕
出 席 者	会長 小川 幸裕、 会長職務代理 杉山 祐子、 委員 東海 孝尚、 委員 鴻野 孝典、 委員 佐藤 寿子 委員 大川 誠、 委員 武田 孝三、 委員 島田 之恵
欠 席 者	委員 鈴木 雅博
事務局職員の 職 氏 名	観光部長 岩崎 隆 文化振興課長 野呂 智子 同課長補佐 安田 広記 同主幹 金川 浩人 同主事 齋藤 翔太
会 議 の 議 題	①弘前市文化芸術振興計画の策定について ②計画策定に向けた文化芸術活動に関するアンケート調査の実施について（市民向け、団体向け）
会 議 結 果	下記会議内容に記載のとおり
会議資料の名称	・資料１-１ 弘前市文化芸術振興計画策定に係るアンケート結果報告書（案）【市民編】 ・資料１-２ 弘前市文化芸術振興計画策定に係るアンケート結果報告書（案）【文化芸術団体編】 ・資料２ 弘前市文化芸術振興計画（素案）
会 議 内 容 （ 発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等 ）	１．開会 ２．会長挨拶 ３．諮問書提出 岩崎観光部長から審議会小川会長へ、弘前市文化芸術振興計画について諮問した。 ４．議事 議題 弘前市文化芸術振興計画について （事務局） 資料１に基づき、１月に実施した市民向け・文化芸術団体向けアンケ

	ート調査の結果を説明。 資料2に基づき、弘前市文化芸術振興計画（素案）（以下「計画素案」という。）について、文化芸術団体との意見交換会やアンケート調査から抽出した文化芸術の課題や文化芸術振興の理念と目標、目標達成に向けた具体的な取り組み、計画の推進体制について説明。 【計画素案第2章、アンケート結果報告書について】 （委員） アンケート結果報告書のまとめ方をもっと工夫すれば読み手がより読みやすくなるのではないか。 具体的には、市民向けアンケートの調査結果概要について以下の4つにまとめられるのではないか。 （1）市民の文化芸術に対する意識 （2）文化芸術活動に対する取り組み状況 （3）活動を阻む要因について （4）弘前市が積極的に取り組まなければならないこと 現在の書き方だと4つの項目が並列関係であるように読めるので、上記の4つを軸として各結果を整理したほうが読みやすいのではないか。 →（議長） 事務局も今回の調査結果概要は並列ではなく連動しているものとして記述していると思う。どこを軸にするかは別として、ご指摘のとおり、表記の仕方としてどのようにまとめるかを考える必要がある。この点について事務局としての考えはあるか。 →（事務局） 議長のおっしゃるとおり、4つの項目は並列ではなく連動しているものとして記述しましたが、確かに委員のご指摘のとおりこの表記の仕方だと並列に見えてしまうので、どこを軸にするのかを含めて標記を工夫します。 →（議長） 委員の意見を補足すると、計画素案第2章第4項（P.25）では、文化芸術団体との意見交換とアンケート結果から課題を抽出したとしているが、その手前の記述では文化芸術振興のポイントになるアンケート設問の結果しか記載されておらず、アンケート結果報告書は計画素案末尾に資料として添付されている。 計画素案本文にも調査結果概要と課題の抽出が連動する形で掲載し
--	---

	たほうが、読み手が理解しやすいのではないか。 (委員) 先ほどの委員の意見のとおり、アンケートの調査結果概要と課題の関係性が見えづらいため、話の流れがわかりづらい。調査結果の各項目がそれぞれどのような課題につながるかを計画素案本文中のどこかに文言を入れると読み手が理解しやすいのではないか。 第4項の最初に、どのような目的で本項を書いているかという見出しのようなものがあればよいのではないか。 (議長) 計画素案第2章第4項(P.25)については、例えば課題①「子どもたちに対する文化芸術に触れる機会の促進」を「子どもたちが文化芸術に触れる機会の不足」といったように、課題の形で表記を統一したほうがいいのではないか。 その課題を踏まえて前向きにこうして取り組みましょうという形にすれば、先ほどの意見であったように話の流れがわかりやすくなると思う。 (委員) 市民向けアンケート問10(P.31)の選択肢の中に「行政から個人活動家に支援してほしい」という選択肢も必要だった。団体だけでなく個人活動家も施設使用料や駐車場料金の負担が大きいので、その支援を求める声を拾える選択肢を用意すべきだった。 → (事務局) 同じく市民向けアンケートの問7(P.28)では、公立の文化施設の役割と限定してはありますが、「入場料や施設使用料を民間と比べて安く提供すること」という選択肢を用意しています。 また、問8(P.29)でも、「経済的余裕がない人も鑑賞しやすい事業」という選択肢をよういしております。それぞれの選択肢を選んだ方の割合が多かったことも踏まえて、結果を分析しております。 (委員) 市民向けアンケート問10(P.31)の選択肢の中に「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」という選択肢はあるが、教育委員会と連携についての選択肢もあればよかった。
--	--

	→ (議長) 教育委員会との連携は今回の計画では不可欠となる。教育委員会については事務局も意識していなかったわけではないと思うが、あえて文言を明確に出していない理由はあるか。 → (事務局) あえて教育委員会の文言を出していなかったわけではなく、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」という選択肢は、例えば子どもたちの学校生活の中での文化芸術に触れる機会を得るということも当然含んだものとして設けています。 また、この後の第3章でいろいろな取り組みを考えていく中では、教育委員会が所管する部分についても言及しています。 (委員) ねふたの運行団体を文化芸術団体向けアンケートの対象に含めるかという論議を提案することを忘れていた。 (委員) アンケート調査結果で「文化芸術活動や催しの情報が一般市民の身近に伝わらない」とあったことに関連して、アンケートでは動画配信活用の有無に関する内容に偏りすぎていたが、その前段階として、インターネットを活用した文化芸術活動の周知支援を盛り込んだほうがいいのか。 実際にやっているのかもしれないが情報が届いていないかもしれないので、それも入れてほしい。 → (議長) コロナ禍においてリモートが意識されているという社会情勢もあったと思うが、ご指摘のとおり、段階的に情報を集約し発信をしてその環境を整えていくという流れを再度確認しておく必要がある。 【計画素案第3章について】 (議長) 第2章で見てきた弘前市の課題を踏まえて、第3章では文化芸術振興の理念や目標を掲げ、その目標について計画していこうという流れに入る。 理念については、事務局の考えでは委員からいくつか案を出してもらいながら詰めていくという段階なので、委員からも意見や要望をい
--	---

	ただきたい。 (委員) 錦絵協会の方によると、若手絵師が描くねぶた絵が劇画調になってきていたり、有名なねぶた絵師の絵を模倣したりと、ねぶた絵を深めていこうという雰囲気がでている。 第2項の基本目標4（P.31）の中で「貴重な文化財や伝統文化を守り」という記述があるが、これだと現状維持という意味合いがある印象があるので、「守り」ではなく「深め」などの表現にしたほうが発展性を感じさせると思う。 → (議長) 「守る」という表現は幅広い意味合いを持つが、狭い意味合いでとらえてしまう方もいるため、この提案は有効的な方法だと思う。 (委員) 第1章ではSDG sを意識した計画としているので、いろいろな特性を持った人たちにも届く情報の発信ということがどこかに入るといいと思う。第3章ではどこかにその要素を織り込んでいますか。 → (事務局) 他自治体の計画を参考にしながら、どこにSDG sの取り組みが該当するのか、その理念をどこに入れ込むかということを検討していきます。 例えば、第4章「文化芸術振興具体的な取り組み」（P.33）で、主な取り組みと内容をまとめていますが、そこにSDG s該当箇所を明記することを考えています。様々な箇所でSDG sを意識した取り組みを盛り込んでいるので、次回の審議会で具体的に表記してお示しします。 → (委員) 特に利用するメディアや言語などを意識されるとよいと思う。他自治体でもその意識を強く持っているところがある。どのメディアだとかどの人たちに伝わるといった具体的なところまでは書いていないが、意識しながらやっているというのを感じる。 → (議長) 情報アクセス困難者は、文化芸術に関心を持っていても情報にたどり着けないという実態があるのでそこにどう配慮していくのが重要な視点となる。それが、第1章でSDG sを掲げている大きなポイントになると思う。
--	---

	市民向けアンケート結果報告書の P.36～37 は、文化芸術活動をともしに行うことをとおして、いわゆるマイノリティの方の孤立予防や交流を深めていくことに貢献するというアンケート項目の結果（文化庁も同じ設問でアンケートを実施）が記述されている。 この結果が基本目標の冒頭に盛り込まれると、多様性の尊重に着目するポイントとしてのインパクトがあり、そのあとの情報発信やアクセス性を大事にするという話につなぎやすいのではないかな。 また、言語や使用するメディアの問題についても、例えば点字やろうあ者に対する支援など一言入れるだけでも大きく雰囲気が変わるので、再度検討してほしい。 （委員） 基本目標 2（P.30）に記述がある「環境づくり」という文言はあまりにも抽象的なので、具体的に何をするかを記述したほうがよい。 → （事務局） 基本目標 2 については、第 4 章（P.35）で具体的な取り組みを整理している。ここに記述している内容を第 3 章の基本目標 2 では「環境づくり」という文言でひとくくりしてしまっているので、もう少し具体的な文言に変更いたします。 → （議長） 第 2 節については、P.31 にはまだ余白があるので、この余白を埋めるくらいのボリュームで具体的な記述を増やしたほうがよい。 （委員） 基本目標 4 の「守る・繋ぐ」という表現は現状維持の意味合いが強く感じる。発展していくのが人間なので、発展性を持つ文言に変更してほしい。 → （委員） 「守る・繋ぐ」という文言は内向きの印象がある。「守る・繋ぐ」の後に、どこかに発信するような印象の文言があればいいと思う。 → （委員） 「深める」という文言は垂直に深くなる印象がある。発展していく、外向きに広がっていくという印象であれば「深め・広げる」という文言だとどうか。 → （委員） 基本目標 4（P.31）に「貴重な文化財や伝統文化を守り、将来に受け
--	---

	継いでいく」とあるが、受け継ぐのは現在の人々の役割だ。「将来に発展させていく」のであればわかるので、文言を工夫してほしい。 →（議長） まずは「拡げる」という文言で落とし込んでみて、次回の審議会で再度検討する形としたい。 【計画素案第4章について】 （委員） 第1節（P.33）に「鑑賞・参加機会」と「鑑賞・体験機会」の表記があるので、どちらかに統一したほうが良い。 （議長） 社会教育の事業計画については教育委員会で策定しており、令和元年度に行われた実績を見ると、文化芸術にかかわる活動が非常に多く行われている。 第4章の取り組み内容については、大まかな文化芸術にかかわるところなのであえて抽象的な表現をしているのだと思うが、読み手は一般市民なので、例えば教育委員会がどういうことをやっているのかなど、情報提供の意味でももう少し具体的に担当部署がわかる表記にしたほうが良いのではないか。 （委員） 基本目標4の2の「後継者育成への支援」（P.38）では、アンケート結果報告書に会員の高齢化という団体の悩みがあることから、若い世代の取り込みについての記述をしていると思う。 ただ、若い世代の中には既存の団体の活動に参加せず別な活動をしたい人もいると思うので、新しい活動の創出についても言及したほうがよいのではないか。 →（議長） 人材育成となると若い世代に焦点が当たるが、アンケート結果では高齢化が出ている。若い世代の人材がなかなか見つからない状況では、退職した高齢者層の取り込みの促進も取り組んでいく必要がある。 また、多様性の尊重の観点から、今まで文化芸術とつながりが弱かった人たちの取り込みについても促進していければよいと思う。
--	--

	(委員) 基本目標 1 の文化芸術イベントに関する情報発信と文化施設の利便性や機能の向上 (P.34) に関して、既存の文化施設の機能や利用についての情報の集積があまりされていないと思う。文化施設の利用に関する情報を収集し、設備等の更新などを発信すればより利便性が高まると思う。 → (事務局) 公共施設は各部署で所管が分かれているが、例えば体育施設の会議室なども文化芸術活動に利用できるように、いろいろな活動に使用できる公共施設がたくさんある。発信の仕方によって情報が届かない人が出てしまうので、多くの人に情報が届くような発信の仕方について検討する。 → (議長) 利用者にとっては、自分たちの活動に適合するかを市に確認しなければならないことが活動意欲の減退につながってしまうので、1つの情報媒体で確認できるように、もしくは予約システムも有効だと思うので、所管部署を横断しての対応ができることが望ましい。 公共施設だけでなく民間団体の所有施設の情報も1つに集約できればなお望ましい。 (委員) 基本目標 2 の「公共施設の利用促進」(P.35) で、「利用しやすい使用料・利用料の検討」という記述があるが、鑑賞会等の料金だけではなく活動に対して、特に子どもの活動に対する支援はできないか。 具体的には、例えば小・中学校の文化部の発表会で市民会館を使用する場合の使用料負担が大きく、父兄が費用の捻出に苦勞をしているという実情がある。 なぜ弘前市内の小・中学校の児童・生徒が使用するのに、民間企業等が営利で使用する際に負担する使用料と同額を負担しなければならないのか。 市民の利用については使用料減免等の優遇措置を検討してほしい。 → (議長) 子どものときに様々な文化芸術の取り組みを市に支えてもらったという感覚を持てば、大人になっても活動への参加意欲を持つ人が増えると思う。 市も財政に余裕がない状況ではあるが、アンケート結果でも使用料
--	---

	の低減の要望が出ている中で、どのように対応するのか、低減できないのであればその対案として何ができるのかを示すことが重要となる。 (委員) 基本目標 1 の「2) 気軽に文化芸術に親しむことができる機会の提供」(P.33) に関連して、弘前市が運営する文化芸術を学ぶ教室があればいいと思う。 NHK 文化センターの閉鎖によりカルチャーセンターにのみ教室が残っているが、料金が高く受講を続けるには費用が掛かる。平日と休日で顧客層を分け、講座は年ごとに徐々に増やしていけばいい。 弘前市には文化芸術を教える人たちがたくさんいるので、その人たちが積み重ねてきたことを学ぶ場として機能すればいいと思う。 → (議長) 機会提供やアクセスしやすい環境の確保は文化芸術振興の重要なポイントとなる。市の計画なので公共施設に話題が偏るが、民間施設についても同じ話である。 例えば各大学の施設を学生の利益のために市民に開放するというのは前向きな話なので、大学コンソーシアム学都ひろさきと連携して活動場所を模索するという手もある。大学生が文化芸術に触れる機会が増えれば、若い世代の活動参加につながるという好循環を生み出せる可能性もある。 【計画素案第 5 章について】 (議長) 本計画と他の計画との関連図を入れてほしい。市全体の取り組みについて定める総合計画の一部として、文化芸術振興の取り組みについて定める計画として位置づけられているということが読み手に伝わるように記述してほしい。 (委員) 第 2 節「文化芸術施策にかかわる各主体の役割」(P.44～47) について、この記述だけだと各主体が別々に役割を果たすだけで完結するように読める。 各主体が協働・連携する場で討論を重ねながら活動することで、今まで積み重ねてきた文化芸術を継承しつつさらに深め広げていく、というねらいを記述するとさらに良くなると思う。
--	---

	→ (議長) 計画の推進については、審議会ではなく文化芸術の担い手である文化芸術団体等に実施主体を担っていただく形になる。計画の位置づけとしては、各主体が別々に動いているところを横断的につないでいくためのものというのが大きいので、この位置づけをあらためて第5章の前段で強調したほうがよい。 多様性の尊重、教育、福祉などを包含した形で、文化芸術を通じた市民の主体的なまちづくりにどう貢献できるかという話になるので、協働・連携の話を第5章の前段から一貫性をもって出していく形がよいと思う。 (委員) 計画推進をよりわかりやすくするため、10年計画を第1期、第2期…のように分け、各期で具体的な目標を明確にしたほうが市民も市が何をやっているのか理解しやすくなると思う。 → (議長) 第3節「計画の指標」(P.46)に盛り込む成果指標で各期の目標を立てればよいのではないか。 (委員) 第2節「教育機関等に期待される役割」(P.45)にある「かん養に努める」という言葉はわからない人もいると思うので、ほかの言葉に直したほうが良いと思う。 → (議長) 「はぐくみ」という言葉で一旦当てはめてみて、次回の審議会で違和感がないか確認したい。 (委員) 同じく第2節「教育機関等に期待される役割」(P.45)で、「子どもたちの感性」を「子どもたちの<u>豊かな</u>感性」としたほうがいいのではないか。 【その他全体で気になる点、思ったことについて】 (委員) 市が文化芸術の細部にまで手を伸ばすと、かえって文化芸術団体や民間企業の活動を圧迫してしまうこともある。
--	--

	型にはめず時代の変化に応じて発展するよう、既存の文化芸術だけでなく新しい文化芸術にも目をかけていくべきだ。文化芸術の形ではなく心意気を継いでいけば次の世代で生きてくると思う。 (委員) 多くの文化芸術を教えられる先生が各学校にいるわけではないので、入る学校によって児童・生徒が希望する文化芸術を選択できないこともある。 学校の外でスポーツのクラブチームが増えてきているように、文化芸術も学校の外で教えてくれるクラブなどがあればいいと思う。 (事務局) 本日はさまざまなご意見、ありがとうございました。この後いただいたご意見を踏まえて修正・追加し、4月下旬に次回の審議会を開催いたします。 5. 閉会
その他必要事項	なし